

第8回東京コカリナフェスティバル

お待たせいたしました。全国最大規模のコカリナフェスティバルがいよいよ2月27日(日)に開催されます。参加サークルは約35団体。初参加のサークルもあり、連続出演のサークルもあり、それぞれに個性的な演奏や演出がとっても楽しいフェスティバルです。当日は、黒坂黒太郎のミニコン

サートも行われます。入場は無料ですので、是非、足をお運びください。

日時：2011年2月27日(日)
開演12時15分
会場：曳舟文化センターホール
〔京成曳舟〕駅下車徒歩1分・
東武線「曳舟」駅下車徒歩4分

4月から新規開講の講座(詳しいことは直接お問い合わせください)

コカリナ講座のお知らせ

- ☆ 東武カルチャースクール(東京都 池袋駅西口 tel:03-3988-4855)
第2・4 木曜日 13:30~15:00
- ☆ NHK文化センター 青山教室(東京都港区 tel:03-3475-1151)
3回講座 4/7(木)、5/26(木)、6/30(木)
10:30~11:30
- ★ 日本コカリナ協会事務所内にも 入門講座(第1・第3金曜日)、
基礎講座(第2・第4土曜日)、および黒坂黒太郎のマンツーマンレッスン
などを行っておりますので、お問い合わせください。



第11回演奏技能資格試験の申込みは2月15日~28日です。
次回は8月(例年2月と8月に実施)です。
皆さんも資格を取って公認講師を目指してみませんか?

事務局 だより

- 友の会の年会費を納めていただきましてありがとうございました。
まだ入金の確認が出来ていない方には再度振り込み用紙を同封させていただきましてので、よろしく願いいたします。(1月31日現在)
すでにご入金いただいているにもかかわらず、振り込み用紙が同封されている場合は、失礼をお許しください。

編集後記

昨年秋、黒坂が「いつも歌は」という里唄を発表しました。この歌の原詞は、東京町田市で80歳まで歌い続けてきた女性の手記です。彼女は、自分がどれほど歌に励まされて人生を送って来たか、を綿々と綴っていました。

私の精神安定剤は歌を歌うことです。子どもの頃から、嫌なことがあった時も、嬉しいことがあった時も歌を歌うと心が落ち着きました。今でもそうです。駅から自宅までの帰り道、自分では小さな声で歌っているつもりでも、御近所の人から「帰ってきたのがわかる」と言

われてしまうくらい、なぜか歌を歌ってしまうのです。車を運転している時も、隣で寝ている人に「うるさい」と言われながらも、2時間でも3時間でも歌い続けます。孫を保育園に迎えに行った帰り道も、二人で手をつないで歌いながら帰ってきます。

「いつも歌は」の歌の最後は「歌があったから愛してこれたこの私の人生を」という歌詞で終わります。コカリナの皆さんはきっと「コカリナがあったから愛してこれたこの私の人生を」なのではないでしょうか? (K・Y)

コカリナ通信 38

2011.2.20

15周年記念コンサート 「ザ・コカリナ」 in すみだトリフォニーホール

感動の渦のなか終了いたしました

名古屋・神戸・軽井沢と続いたコカリナ15周年「ザ・コカリナ」コンサートツアーも、1月15日、東京すみだトリフォニーホールで最終日を迎えました。客席にはほぼ満員のお客様、そして、美智子皇后さまもご臨席くださるという嬉しいお知らせもあり、程よい緊張感の中でステージは始まりました。黒坂黒太郎のソロ演奏、そして約180名のコカリナ合奏、里唄とコカリナの魅力をあますところなく表現したコンサートでした。そして、アンコールの「ふるさと」では、ステージも客席も一体となった大合唱・大合奏となり、大きな感動の渦の中でコンサートが終了しました。

11月からこのステージのために練習を重ねて下さったアンサンブルメンバーの皆様、本当にお疲れ様でした。素晴らしい演奏をありがとうございました。アンサンブルの演奏は迫力があって素晴らしかったとたくさんの方から感想をいただいています。そして、寒い中、足をお運び下さいました観客の皆様、ありがとうございました。



「ザ・コカリナ」コンサートを鑑賞される美智子皇后さま。ご案内する太田雅久日本コカリナ協会理事長(手前)と、日本コカリナ協会公認製作者 大熊信幸氏(奥)。(産経新聞社提供)

享月 日 新刊 隔月
2011年(平成23年)1月16日

■皇后さまコカリナ鑑賞
皇后さまは15日、東京都墨田区のすみだトリフォニーホールで、演奏家の黒坂黒太郎さんらによるコカリナ15周年記念コンサートを鑑賞した。コカリナはハンガリーの笛を元に黒坂さんが発案・制作した木製の笛で、皇后さまも御所で黒坂さんに吹き方を習ったことがある。皇后さまは、広島で被爆したエノキで作られたコカリナによる「鳥の歌」などに耳を傾け、最後は観客と一緒に唱歌「故郷」を口ずさんでいた。

読売新聞 2011年1月16日

●皇后さまコカリナ鑑賞
皇后さまは15日、東京・墨田区で行われた木製の管楽器「コカリナ」のコンサートを鑑賞された。コカリナ演奏の第一人者、黒坂黒太郎さん(61)が、広島への原爆投下時に被爆したエノキから作ったコカリナで演奏した。コカリナは、黒坂さんが1995年、ハンガリーから日本に持ち帰った楽器をオカリナに構造が似ていて、木で出来ていることなどから命名、改良されてきたもの。皇后さまは盛んに拍手を送られていた。

福井 & 静岡

コカリナアンサンブル団員募集!!

今年は福井と静岡でも「黒坂黒太郎コカリナコンサート」が予定されています。このコンサートにコカリナアンサンブルの一員として参加しませんか？アンサンブルに参加し、黒坂の指導を受けた方からは「とてもわかりやすかった」「小さな事だけ

ど、教えられた通りにしてみたら音色が変わった」等の感想を頂いております。今回も、黒坂が直接指導いたします。サークルで楽しんでいるかたも、一人で楽しんでいらっしゃる方も、この機会にぜひご参加下さい。

★福井コンサート

本番：2011年5月21日(土)

開演14時 予定

場所：ハーモニーホールふくい

練習日：3月26日・4月23日・5月20日

★静岡コンサート

本番：2011年8月21日(日)

場所：しずぎんホール ユーフォニア

練習日(予定)：6月・7月・8月 各1回

詳細は黒坂音楽工房 (tel:03-5626-1581) までお問い合わせください。

出演者の皆さんから たくさんのご感想が寄せられています。その中から一部紹介します。

感想文

☆とても良い経験になりました。折れそうな心が少しずつ強くなった。そこに一緒にコカリナが添ってくれた。久しぶりに自分磨きに力を尽くすことの楽しさを味わいました。

神奈川県 酒井

☆参加できとても感謝と感動しています。「アイネクライネ」を吹きたいという思いだけで中級コースに申し込んだ私は9月大手術を受けた直後の練習開始。ほとんどついて行けず絶望の淵からのスタートでしたが回を重ねるごとに光が見えてきました。できなかったことが、出来るようになる喜びは何歳になっても嬉しいことです。こんな機会を与えてくださった先生方、仲間達、家族に感謝しております。

埼玉県 江崎

☆コカリナ最高、里歌は今でも歌声が心の中で響いています。友人達から沢山の感動の言葉を聞き、願わくばもう一人の私がいて客席で鑑賞したかった!と思いました。

長野県 滝沢

☆すばらしいホールでの見事な演奏、アンサンブルに感動しました。練習過程でたくさん学べる事が楽しかったです。

栃木県 菊田

15周年 ファイナルコンサートに参加して

☆皇后様に聴いていただけるなんて一生の宝物です。コカリナとの出逢いが私の人生に大きな変化をいただきました。コンサートでの大きな感動は、言葉には表せない位、楽しさとよろこびです。里歌も詩も曲もすてきで、その土地土地の思いや人々のことが心から伝わってきて、CDを毎日何度も何度も聴いています。

新潟県 鈴木

☆舞台でコカリナを吹き、また3階の席で聴き改めてコカリナの素晴らしさに感激しました。また黒坂先生のご指導のわかりやすさ、私でも(私なりに)吹けるんだと思えたことが一番!“やめなくてよかった”勇気をもらいました。

千葉県 栗田

☆仕事が忙しくなって練習時間が作れず、サークルやめようかなと思い悩んでいた時に参加のお便りが届き「これを思い出してからでも良いかな」と参加しました。練習では他のサークルの方ともお話が出来、皆さん色々な事を背負って頑張っているのに刺激されました。レッスンを重ねるうちに充実感・責任感、そして少しの自信をいただきました。

埼玉県 S

講師の つぶやき

コカリナコンサート in 蒲郡

日時：2011.3.12(土)午後2時

会場：蒲郡市民会館中ホール

愛知県 広浜 洋子

メールが来た。「難しい」「楽器がならない」と、共に一級を目指す二人から、コカリナをあいつがためのせつない言葉が綴られていた。そんな時、どんな言葉をかければいいのか。そう。自分の言葉で素直に思いを伝えれば良いとメールを返信した。

コカリナの良さは、合奏すること。これしかないと思うほど、演奏者の気持ちがぴたっと合う瞬間がとても楽しい。

ひとりで吹くのもいいけど、合奏する楽しさをみんなに伝えたい。そんな思いで独自のコンサートを企画した。みんなの気持ちがひとつになるには多くの時間はかからなかった。自分の出来ることを、少しの時間と気持ちをコンサートに向けてもらう。それだけで充分だ。

「上手に吹こうと思わないで自分を信じて楽器を

仲間と共に

神奈川県 佐藤 孝

定年退職して間もなく、コカリナの教室を開きました。三年前のことです。退職後の半年や一年は十分に自分を労って、それから吟味しながら第二の人生をゆっくり歩み始めるのが普通なのでしょうが、私の場合は准講師の身ながら、生徒を取って教室を開くことに決めていました。それは、長い間コカリナと親しんできて、私自身すっかりその魅力に嵌ってしまっていて、一人でも二人でもいいからこのコカリナの魅力を共有し、自分たちのコカリナの世界を深めていきたいと思ったからです。

私の教室のメンバーは一線をリタイアした60代が10人程で、コカリナは初めての人々たちです。小・中学校時代は音楽の時間はもっぱら合唱で、楽器として身近に手にしたのはコカリナが最初だという人もいます。

初めの頃は音合わせが大変でした。ソプラノコカリナのドの音が難しく、チューナーや他の楽器を使って音合わせをするのですが、それでもなかなかうまくいきませんでした。それでも継続は力か、長い期間かけることによってみんなの耳の感覚が少しずつ向上したのか、以前とは比べものにならないほど上手にできるようになりました。

ハーモニーを楽しむために、私達はバリトンコカリナを早いうちに持つようにしました。難しい技術がそれほど必要でなくても、比較的美しく演奏できる2部、3部の合奏曲を選んで練習してきました。団塊の

信じて自分をいとおしいと思って吹いてみたら……と」そして、楽器を可愛がってあげてほしいこともさりげなく、しかも大切なこととして伝えることにした。

コカリナ15周年しらかわホールでのコンサート打ち上げ会場、アイリッシュパブの丸テーブルで高めの椅子に座り、コンサートの合評を福井県の三人と話したあの夜。その日から蒲郡と福井は繋がりが今回のコンサートへと進展していった。

小牧のコカリナ製作者の黒田さんには、蒲郡特産のみかんの木でコカリナを作ってもらい(明るい音色で高音がよく伸びる)蒲郡市民への認知度も上がり仲間がふえた。小牧のみなさんにも快く参加してもらうこととなりレッスンにも通った。豊橋の講師にもステージや交流を深め生徒さんと出演してくれるようになった。全員で40人余りの大編成となった。

ひとり一人の力を結集して創り上げていく充実感をわがち合い参加してくれた人に感謝したい。ありがとう。

黒坂さんの里歌で東三河の「ほの国で」の詞を紹介したい。

ほっと心 休ませてごらん

ほっと心 遊ばせてごらん

ほっと心 愛されているよ

大丈夫だよ 山は見守っている

緑抱きしめて 空は広がっている

そして、地域のみなさんとコカリナ愛好者にコンサートに来ていただけたら、うれしいです。

世代の私達が今まで歌ったり、耳にしたことのある楽曲もたくさん取り上げました。ソプラノのユニゾンだけでは何か浮ついて安定しないのが、バリトンやCバスと合わせることによって、ソプラノのメロディが安定し、美しいハーモニーを得やすいことが分かってきました。

私達の練習は「質より量」。ひたすら反復練習し、どのパートでもみんなが吹けるようにとがんばっています。音楽の奥深さをしみじみ感じるところまでには到底いきませんが、それでも時間をかけ、思いを一つにして仕上げた一曲にささやかな充実感と憩いを感じとれるようになってきました。

昨年から今年にかけて、メンバーの多くは里歌のCD制作に参加したり、大きな音楽ホールのステージで黒坂さんやたくさんの方のコカリナ愛好家と一緒に演奏させていただいたりしました。私も含めて誰もが思いもしない貴重な経験だったと思います。コカリナが特別な楽器ではなく、これほどまで多くの人々に愛され、人の輪を広げていく楽器だということも理解してもらえたのではないかと思います。

コカリナ教室を開いて3年が経とうとしています。音楽の専門教育を受けたわけでもなく、ただコカリナが好きだというだけで講師になった私を、教室のメンバーはなだめすかして盛り上げてくれます。私にとっては、この人たちは講師と生徒の立場を越えたコカリナを吹く大切な仲間たちなのです。音楽のたおやかな山の峰々を仰ぎ見ながら、これからもコカリナ仲間と共に歩んでいきたいと思っています。